

ベラルーシのチェルノブイリ研究の現状について

参考資料2：今回のベラルーシ行きで入手した資料等

1. まとまった本の類

- 1-1. 「チェルノブイリ・カタストロフ：原因と影響」、Vol. 3（ベラルーシ共和国におけるチェルノブイリ・カタストロフの影響）、
ベラルーシ放射線安全研究所「БЕЛПАД」編、
ミンスク、スカリイナ出版、1992。（全207p）

水文気象委員会のマトヴィエンコ氏より頂いた本で、チェルノブイリに関する4分冊の第3巻。前文を読むと、旧ソ連の最高会議に設置されていた専門家委員会が、ソ連崩壊後も独自に活動を続け、独自に出版したもので、その3巻がベラルーシへの影響である。

- 1-2. 「チェルノブイリ：放射能汚染」、

Ю. А. イズラエリ編、

レニングラード水文気象出版、1990。（全296p）

旧ソ連水文気象委員会議長のイズラエリ氏が、放射能汚染についてまとめたもの。これまでに見たデータも多いが、初めて見るデータもかなり含まれている。じっくり読む必要があるが、まだペラペラとめくっただけ。

2. 著者またはその関係者からもらった論文等

- 2-1. Е. П. ペトリャーエフ他4名（ベラルーシ国立大学）

「ベラルーシの土壌中のチェルノブイリ放射能の存在状態について」

ベラルーシ科学アカデミー通報・物理エネルギー編、1991、No.3、pp48-55（ロシア語）

- 2-2. Е. П. ペトリャーエフ他5名（ベラルーシ国立大学）

「農業-ラジオエコロジー的側面からみたチェルノブイリ放射能の移行挙動」

同上、1991、No.3、pp26-32（ロシア語）

- 2-3. Е. П. ペトリャーエフ他4名（ベラルーシ国立大学）

「チェルノブイリ原発から放出されたCs137とSr90の土壌中移動について」

ベラルーシ科学アカデミー通報・化学編、1991、No.1、pp84-87（ロシア語）

- 2-4. Ю. И. ボンダリ他7名（放射線生物学的研究所）

「国立ポレスコエ・ラジオエコロジー・ゾーンにおける放射能汚染」

ベラルーシ科学アカデミー通報・物理エネルギー編、1991、No.4、pp58-63（ロシア語）

- 2-5. Ю. И. ボンダリ他2名（放射線生物学的研究所）

「チェルノブイリ近辺の腐食ポドウゾル土壌中における放射性核種の分布」

ベラルーシ科学アカデミー通報・化学編、1991、No.5、pp86-90（ロシア語）

- 2-6. В. Н. ゼムスコフ他2名（放射線生物学的研究所）

「セシウム137とストロンチウム90の水中濃度に及ぼす水中化学成分の影響」

ベラルーシ科学アカデミー通報・物理エネルギー編、1991、No.4、pp85-88（ロシア語）

- 2-7. Ю. Н. Галиков他4名 (放射線生物学研究所)
「ゴメリ州とモギリョフ州の水環境における放射能汚染」
同上、1991、No.4、pp78-82 (ロシア語)
- 2-8. В. М. Долгов他4名 (放射線生物学研究所)
「水環境における放射性物質の分配」
同上、1991、No.4、pp83-85 (ロシア語)
- 2-9. В. П. Милонов他6名 (放射線生物学研究所)
「ベラルーシ領内における“核燃料”粒子の同定」
同上、1991、No.4、pp39-42 (ロシア語)
- 2-10. М. А. Дульгаチェнок他2名 (放射線生物学研究所)
「避難地域における1990年の大気中放射能汚染」
同上、1991、No.3、pp32-35 (ロシア語)
- 2-11. М. А. Дульгаチェнок他4名 (放射線生物学研究所)
「ベラルーシ諸都市における大気中放射能汚染の変動」
同上、1991、No.4、pp73-77 (ロシア語)
- 2-12. В. П. Матко他3名 (放射線生物学研究所)
「チェルノブイリ原発国立ポレスコエ・ラジオエコロジー・ゾーンにおける草類への放射能蓄積に関する地形的・地質的条件」、同上、1991、No.4、pp64-9 (ロシア語)
- 2-13. И. Ф. Майсеенка他2名 (ザパベードウニク)
「森林樹木における放射性核種の蓄積」
ベラルーシ科学アカデミー通報・生物学編、1992、No.5-6、pp11-16 (ベラルーシ語)
- 2-14. В. И. Гапаненко、Л. К. Схапель (放射線生物学研究所)
「播種前にガンマ照射されたオオムギの葉緑体代謝」
ベラルーシ科学アカデミー報告、35、No.6、1991、pp563-6 (ロシア語)
- 2-15. В. И. Гапаненко他4名 (放射線生物学研究所)
「放射能汚染下での栽培における、放射能蓄積、光合成活動、農業生産性への生物学的活性物質の影響」
ベラルーシ科学アカデミー通報、1992、No.3、pp70-4 (ベラルーシ語)
- 2-16. В. И. Гапаненко他4名 (放射線生物学研究所)
「ベラルーシ南部の高放射線地域における農業植物への放射能蓄積特性」
ベラルーシ科学アカデミー通報・生物学編、1992、No.1、pp26-31 (ベラルーシ語)
- 2-17. А. П. Багдаринов他3名 (放射線生物学研究所)
「放射能で汚染された土壌表面からの β 線の線量特性」
ベラルーシ科学アカデミー通報・物理エネルギー編、1990、No.4、pp58-60 (ロシア語)
- 2-18. Г. Г. Гатко、И. И. Клирлова (放射線生物学研究所)
「低線量ガンマ線被曝のラット甲状腺機能に及ぼす影響」
ベラルーシ科学アカデミー通報・生物学編、1990、No.5、pp109-111 (ロシア語)

- 2-19. Г. Г. ガツコ他4名 (放射線生物学研究所)
「放射能汚染地域で飼育された実験動物甲状腺の生理学的状態」
ベラルーシ科学アカデミー通報・物理エネルギー編、1991、No.4、pp109-14 (ロシア語)
- 2-20. B. B. シロフ、Л. М. ロバノク (放射線生物学研究所)
「Cs137を投与されたラットにおける心筋収縮機能のアドレナリン調節」
ラジオビオロギー、32、No.1、pp143-7(1992)、(ロシア語)
- 2-21. M. B. シネレバ、Л. М. ロバノク (放射線生物学研究所)
「 α -、 β -アドレナリン受容体の刺激による心筋変力性作用への γ 線被曝の早期的・晩発的影響」、ラジオビオロギー、30、No.4、pp491-5(1990)、(ロシア語)
- 2-22. Г. Л. ルクシャ他2名 (放射線生物学研究所)
「 γ 線被曝と、デクサメタナゾン、アクチノマイシン及びシクロヘキシミド投与後の、糖質コルチロイドの細胞内サイクル」
ラジオビオロギー、30、No.5、pp602-6(1990)、(ロシア語)
- 2-23. B. B. シロフ、Л. М. ロバノク (放射線生物学研究所)
「 γ 線外部被曝による、心房・心室の心筋機能の時間的変化」
ラジオビオロギー、31、No.3、pp432-5(1991)、(ロシア語)
- 2-24. A. A. ミリューチン他2名 (放射線生物学研究所)
「Cs137投与による、赤血球細胞膜の構造への影響」
ラジオビオロギー、33、No.2、pp302-6(1993)、(ロシア語)
- 2-25. E. Ф. コノプリア他6名 (放射線生物学研究所)
「老化における糖質コルチロイド効果のメカニズム」
ソ連生理学ジャーナル、76、No.9、1224-31(1990)、(ロシア語)
- 2-26. V.S.Soldatov (Inst. Phys. Org. Chemistry, Belarus Academy of Sciences)
"Migratin of Radionuclides in Natural Media. The Chernobyl' Case"
Proceedings of NATO conference, Italy, 1992, 17pages.
- 2-27. V.A.Knatko et.al., (Inst. Radiobiology of Byelorussian Academy of Sciences)
"Radiation Doses in Southern Byelorussia from the Inhalation of Specific Radionuclides Following the Chernobyl Accident"
Radiation Protection Dosimetry, 48 No.2 (1993)179-83.
ミンスクでKnatko氏から投稿中と聞いた論文で、戻ってみるとpublishされていた。
- 2-28. 遺伝・新生児疾患研究所のラズユーク所長からもらったデータ
新生児と人工流産胎児の異常に関する最近の図表5枚

3. 第3者からもらった論文等

- 3-1. B. K. ルカシェフ、E. И. ロセヴァ
「ミンスク市の土壌中放射能へのチェルノブイリ事故の影響」
ベラルーシ科学アカデミー報告、34、No.8、1990、pp744-7 (ロシア語)

3-2. H. П. バチコフ他3名

「放射線増加地域に住む住民の、抹消血リンパ球の染色体異常」
同上、35、No.8、1991、pp745-8（ロシア語）

3-3. П. P. シドゥロフスキー（ブレスト州保健局）

「ブレスト州の放射能汚染地区における住民の発病率」
ベラルーシ保健衛生、1992、No.1、pp8-12（ロシア語）

3-4. П. P. シドゥロフスキー（ブレスト州保健局）

「ブレスト州の放射能汚染地区における全般的発病率」
同上、1992、No.5、pp13-7（ロシア語）

3-5. A. M. ペトウロヴァ他2名（ベラルーシ母子保健研究所）

「放射能汚染地区に居住する1才児の免疫系の状態」
同上、1992、No.5、pp17-9（ロシア語）

3-6. A. B. フルマンチュク他4名（ベラルーシ保健省・腫瘍放射線研究所）

「ベラルーシの小児甲状腺ガンの形態学的特性」
同上、1992、No.10、pp13-7（ロシア語）

3-7. E. B. ドムラチェヴァ他3名（ソ連保健省・全ソ血液科学センター）

「放射線被曝による白血病問題」
血液学と輸血学、1990、No.6、pp3-9（ロシア語）

4. その他資料

4-1. 「チェルノブイリ。極秘」、

A. ヤロシンスカヤ著、モスクワ、1992。（575p）

ベラルーシから帰ってみると、ヤロシンスカヤ女史から送られてきていた本。ヤロシンスカヤは、チェルノブイリに関する旧共産党の秘密文書を暴いたジャーナリスト（技術と人間、1992年9月号）で、現在エリツィン大統領のブレーン。チェルノブイリについての自分の活動をまとめたもの。後ろの半分は、秘密文書そのもののコピー。

4-2. "Chenobyl Humanitarian Assistance and Rehabilitation Program"

Situation Report No.1/93, May 21, 1993, 13pages.

International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies.

ミンスクの日本大使館でもらったもの。国際赤十字の現状認識と援助計画のまとめ。

4-3. 「チェルノブイリ後の生活」フォンドの規約と1993年活動計画

4-4. 「数字でみるベラルーシ、1988年」

ベラルーシ政府統計委員会、104ページ。
ミンスクの書店で、1ルーブルで買ったもの。

以上。